

第八回

明月之會



平成十八年九月三日(土)三時始
於・觀世能樂堂

東京都渋谷区松濤二丁目十六-四
☎〇三(三四六九)五二四一

能 砧 加藤 眞悟

狂言 呼声 山本 則直

能 船弁慶 梅若万三郎

第八回 加藤眞悟 明之会

独立十五周年記念
平成十八年九月二日(土) 二時始
場所 観世能楽堂

能 砧

前シテ 若屋某の妻 加藤 眞悟
後シテ 妻の亡霊 梅若 紀長
ツレ 夕霧 梅若 純
ワキ 若屋の某 村瀬 純
ワキツレ 従者 村瀬 提
アイ 下人 遠藤 博
笛 松田 弘之
小鼓 幸 信吾
大鼓 安福 建雄
太鼓 観世 元伯

後見

梅若万佐晴 梅若 泰志
中村 裕
青木 健一 遠田 修
古室 知也 西村 高夫
地謡 長谷川晴彦 清水 寛二
八田 達弥 伊藤 嘉章

狂言 呼声

太郎冠者 山本 則直
主人 山本 則重
次郎冠者 山本 則俊

〈休憩 10分〉

独吟 最上川

梅若万佐晴

昭和の数寄者、益田孝男の所持した沢庵和尚作の小謡「最上川」。その真筆はめでたいゆかりで初世万三郎にゆづられました。最上川の上り下りの風物が描かれています。節付・初世梅若万三郎

能 船弁慶

前後之替

前シテ 静御前 梅若万三郎
後シテ 平知盛の霊 加藤 慎一朗
子方 義経 加藤 慎一朗
ワキ 弁慶 森 常好
ワキツレ 判官ノ従者 館田 善博
判官ノ従者 森 常好
ワキツレ 判官ノ従者 館田 善博
アイ 船頭 山本 則直
船 藤田 次郎
笛 藤田 次郎
小鼓 幸 清次郎
大鼓 柿原 弘和
太鼓 助川 治

後見

中村 裕 梅若 紀長
梅若 久紀 遠田 修
古室 知也 青木 一郎
梅若 泰志 伊藤 嘉章
地謡 長谷川晴彦 八田 達弥

主催 加藤眞悟 明之会
(終了予定六時頃)



【船弁慶】加藤眞悟 撮影・松原広子

砧

郷里を離れて訴訟のために三年も京に滞在する筑前若屋の某(ワキ)が、「年の暮れには帰る」と妻に伝えるために留守宅に夕霧(ツレ)を送り出します。夕霧を迎えた妻(シテ)は、蘇武の妻が高楼に登って、打つ砧の音が胡国の蘇武に届いた中国の故事にならって、自分も砧を打って寂しさを慰めます。しかし「今年も帰れない」との知らせに絶望して亡くなってしまいます。

ワキが帰国して、下人(アイ)から砧を打っていた妻の様子を聞き、砧の前で弔いをします。そこに妻の亡霊が現れ、恨みと嘆きに囚われて成仏できない様子を訴えますが、回向によって救われます。

呼声

無断で休んでいる太郎冠者を、主人と次郎冠者が訪ねて行きます。声をかけると「留守だ」との返事、一計を案じて平家節で呼びかけると平家節で応えるので、小歌節や踊り節で問答をしているうちに、太郎冠者は…

船弁慶

都落ちする義経(子方)に、攝津国大物浦まで付いて来た静御前(前シテ)は、京に帰れと言われて、悲しみの内にも中国の故事や清水観音の尊詠で、義経を励ます舞を披露してから去って行きます。

船出した義経や弁慶の一行に、嵐の中で、平家の亡霊が襲い掛かります。なかでも平知盛の霊(後シテ)は義経を海中に引き込もうと、薙刀を振りかざして攻めかかりますが、弁慶の呪文によって、亡霊は波間に消えていきます。

今回は、前シテ、後シテも常とは替わる型で演じます。

【入場料】

指定席S 九,〇〇〇円
指定席A 七,〇〇〇円
指定席B 六,〇〇〇円
自由席 四,〇〇〇円
学生 三,〇〇〇円

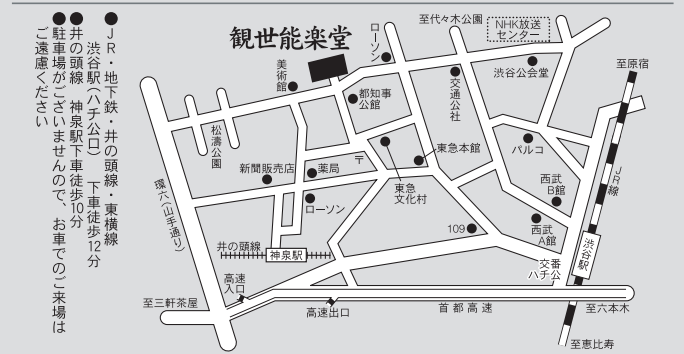
【明友の会会員募集】

入会金 一、〇〇〇円
年会費 一、〇〇〇円
特典
・明之会公演の入場料一割引(一会員 三席まで)
・会報や演能、勉強会のお知らせなどをお届けします

【お問い合わせ・お申し込み】

加藤眞悟 ☎045(481)8704
ホームページ <http://shingo.from.tv>
携帯メール shingo55kato@ezweb.ne.jp
梅若研能会 ☎03(3466)3041

■表紙写真【砧】三世梅若万三郎 撮影・前島吉裕



日時 ■平成18年9月28日、10月5・26日、11月2・16日(各木曜)の午後2時~3時30分
会場 ■本行寺(JR日暮里駅西口1分)
講師 ■加藤眞悟
受講料 ■10,000円(5回)、教材費 2,100円
●ご予約・お問い合わせ ☎045-481-8704 加藤眞悟

能楽体験講座

能の話、謡と舞の基本の型の体験をします

『経正』を謡ってみよう

能を愉しむ